

細腕なんて言わせない!!

249



「動物も人間と一緒にです。高齢化も進んでいますよね。病気になったからといって捨てたりしないで、最期まで面倒を見てください」と、話す木村さん

家族の一員、ともに楽しく

「高齢化での病気も多いです」と語る **木村 恵子**さん

■北茨城アニマルクリニック院長
■北茨城市磯原町磯原五ノ五四

電話／〇二九三ー四三ー一六六三三

犬、猫。数々の動物の中、彼らは昔から人間にとって最も身近な生き物であり、家族の一員となっているケースも多い。とはいえ、飼育はしてきたものの、手に負えなくなり、放棄というケースも後を絶たない。

「好きで飼った以上は最期までしっかりと面倒を見てください。絶対、捨てないでください」と、命の大切さを訴えながら真摯（しんしん）に話すのは、木村恵子さん（五三）。

平で生まれ、地元の高校を卒業後、北海道の大学で六年間、獣医学を学んだ木村さんは、地元の犬・猫病院勤務を経て上京し、さらに関連知識を身に付けた。現在地に開業したのは、平成七年三月、自身、三十四歳の時で、今年で十九年目を迎えた。

「本当は地元で開業したかったのですが、いろいろと事情があったものですか」と言って笑顔を見せる木村さんは、今、三人のスタッフとともに、「犬と猫だけ」の専門クリニックとして日々、奮闘を続ける。



本場・中国へわたり 中医学も学び、活用

患者として多いのは、犬の方。病名は、アレルギー性皮膚炎、脱毛、外耳炎、結膜炎、関節炎、下痢・便秘、慢性的な体調の不良（生活習慣病）。さらに、各器官の腫瘍（しゅよう）など。一方の猫は、膀胱（ぼうこう）炎、結膜炎、皮膚炎などが上位で、いずれも人間とほぼ同じ。このうちのほとんどが「現代病」と言われるが、最近特に増えつつあるのは、寿命が飛躍的に延びたことに伴う、高齢化による特有の病気。

まだまだ勉強ですよ

これらの病気については従来、西洋医学による治療が多かったが、木村さんは漢方や鍼灸（しんきゅう）の東洋医学、いわゆる「中医学」での診療に注目し、関連のセミナーなどに出席して学ぶ傍ら、本場の中国へも足を運び、活用。 「今年の五月にも北京へ行き、勉強してきました。そうですね、これまで年に一、二回は中国へわたり、月に一、二度は上京して中医学について学んでいます。西洋の薬がなかなか効かないときなどは、東洋医学で治療します。証（しょう）が合えば、治りはとても早いです。針も効果的ですよ」



ただ、動物は人間のおよそ五倍もの速さで年齢を重ねていくため、木村さんは、「私は、単なる病気の治療だけでなく、家族の一員のペットたちが、いつも健康で共に楽しい生活が得られるお手伝いをしたいと思っています」と、強調。 こうして励む木村さんだが、地域の人口の減少ぶりには頭を痛め、「ここ数年で一人も減ったんですよ。経営にも響いて…」と、苦い表情をみせるものの、「走り続けて三十年、あつという間でした。でも、まだまだ知らないことが多いので」と、前向きな姿勢を見せつつ、最近の社会風潮に対しては「若者たちに覇気がないですね。それに、格差、階級社会が顕著になって。要は教育ですかね」と、「問題提起」してくれた。

プロフィール

きむら・けいこ

1961年11月3日生まれ。平出身。磐城女子（現・磐城桜が丘）高卒業後、酪農大学・酪農学部獣医学科で学ぶ。「子どものころに飼っていた犬、そして将来は手につくものをと考えていたこと」が、この道へのきっかけ。「私、仕事しかしてこなかった。今、パートナー募集中です」と言っ、にっこり。「トリマーも募集中ですよ」。得意な料理は、「普通の料理もできます」。O型

■お知らせ=このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。

京・祇園 西河 竹工芸展

■会期/平成26年6月26日(木)~7月8日(火)
午前10時~午後6時(最終日は午後5時閉場)

1831年創業の京都の老舗「西河」の作品展です。
今回は「しきりと灯り」をテーマにご紹介いたします。



京都・西河プロフィール

天保2(1831)年創業。
以来、竹芸ひと筋。葦や藤などの天然素材を活かしたオリジナルティに富んだ作品を制作しています。

有限会社 **小野美術**

いわき市平字中町22番地の2 Kビル1F

☎0246-35-0383

HP: <http://onobijutsu.jp> e-mail: onobijutsu@sirius.ocn.ne.jp